

令和6年度 教科研修会Ⅱに向けた授業の構想

音楽科

1 音楽科の研究テーマ

音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方

2 音楽科として育成を目指す資質・能力の受け止め (研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体的な姿)

- ・「夢の世界を」の曲想の変化と強弱や構成との関係を理解し、友と歌い試したり意見交換したりしながら、表現を深めていく姿 (1学年、歌唱分野)
- ・「荒城の月」の歌詞の内容や旋律と強弱や速度との関係を理解し、友と歌い試したり意見交換したりしながら、曲にふさわしい表現を追求する姿 (2学年、歌唱分野)
- ・「Amazing Grace」のテクスチュアについて理解し、友と歌い合わせたり、意見交換したりしながら、曲にふさわしい表現を追求する姿 (3学年、歌唱分野)

3 題材名・学年 「歌詞と旋律が生み出す雰囲気を感じながら歌おう」・2年

4 題材の概要 (全3時間扱い 本時は第3時)

題材の学習問題

「荒城の月」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表現するには、どのように歌えばよいか。

題材展開

時間	学習活動
第1時	<p>◆『荒城の月』の歌詞の内容を理解し、情景を想像したり、心情を感じ取ったりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短調の旋律や七五調の言葉の雰囲気を感しながら歌う。 ・作詞者の考えや写真資料を基に歌詞の内容を確認し、想像した情景や感じ取った心情を友と共有する。 <p>【題材の学習問題】「荒城の月」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表現するには、どのように歌えばよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習形態 (個人、ペア、グループ等) を各自で選択し、情景や心情を表現するための工夫を考えながら歌う。
第2時	<p>◆旋律の特徴について知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、どのように表現したいか思いや意図をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きに着目しながら歌い、強弱との結びつきを理解する。 ・原曲と編曲版 (山田耕筰) を比較する中で、強弱や速度と旋律との関わりが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 <p>【題材の学習課題】強弱や速度に着目し、各旋律の歌い方を考え、表現を工夫して歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～4番の中で一つ選び、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すか、思いや意図を記入し、練習形態を選択して実際に歌い試す。
第3時 (本時)	<p>◆創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考えを共有し、練習形態を選択して実際に歌い試し、試行錯誤する中で、思いや意図を実際の歌唱表現で表すことのできるような技能を身に付け、歌唱表現を追求する。

※題材の中で見つけた「荒城の月」のよさについて振り返る場を別で設ける。

音楽科学習指導案

令和6年7月3日(水) 5校時 音楽室

授業学級 2年A組(40名)

授業者 志賀 浩介

- 1 題材名 「歌詞と旋律が生み出す雰囲気を味わいながら歌おう」
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表すための歌い方を考える場面で、強弱や速度に着目して、各旋律の歌い方について友と考えを共有しながら、練習形態を選択して歌う活動を通して、曲にふさわしい表現のために必要な発音の仕方などを身に付けて歌うことができる。【A(1) アイ(ア) ウ(ア)】
- 3 題材の学習問題：「荒城の月」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表現するには、どのように歌えばよいか。
- 4 本時の位置(全3時間中 第3時)
前時：強弱や速度と旋律との関わりが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すか、思いや意図をもった。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。	題材の学習問題：「荒城の月」の歌詞から想像した情景や感じ取った心情を表現するには、どのように歌えばよいか。 題材の学習課題：強弱や速度に着目し、各旋律の歌い方を考え、表現を工夫して歌おう。		12分
		ア 私は4番の情景に魅力を感じた。強弱を大きくする旋律と小さくする旋律があることで、この部分の寂しさを表現できそうだ。 イ 4番最後の部分について「夜半の月」は虚しさを強調するように小さく強弱変化をさせたい。そのためには、「夜半の」の発音の仕方を一つ一つ時間をかけて行いたい。	・前時を振り返り、歌詞の内容や曲想と旋律や強弱等の結びつきについて確認する。 ・イのように表現方法や発音の仕方を見いだしている生徒を取り上げ、本時の学習の見通しをもてるようにする。	
展開	2 各旋律の歌い方について友と考えを共有しながら、練習形態を選択して歌う。	ウ Aさんの「夜半の月」の部分で急に小さくなることでより虚しさが強調されるという意見に共感し、取り入れたいと思った。 エ 前回の授業では、数人で集まって4番をしっかりと歌えるように練習した。少人数でも歌えるようになってきたので、今度はAさんとペアを組み、伝わる表現になっているか、聴き合いながら練習したい。 オ 「夜半の月」で急に小さくなる表現を実際にやってみた。息を混ぜるようにpで発音することで虚しさが表現できそうだ。 カ Aさんと歌い試す中で、「ああ荒城の」の前で嘆きの思いをfで歌い、「夜半の月」から雰囲気が変えられるよう、その直前の息は時間をかけずにスッと吸いたい。 キ 「ああ荒城の」を嘆きのfで歌うために、その直前の息の吸い方を大きくすることで、クレッシェンドを充実させたい。	・各自の考えを共有する場を設け、新たな考えをワークシートに追記するよう促す。 ・前時の学習を振り返り、各練習形態(個人、ペア、グループ等)の有効性を確認し、各自が練習形態を選んで練習する場を設ける。 ・練習が進みづらい場合には、合図の出し方や拍の打ち方などを助言する。 ・オのような意見を全体で取り上げ、そのために必要な技能は何か問い、息の吸い方や発音の仕方などを確認する。 ・再び各自の練習形態で歌う場を設け、机間巡視の中で発音や息遣いの助言をする。 ・数名の生徒に発表を促し、本時を振り返る場を設ける。	25分
	3 友の発表を聴き、本時の学習を振り返る。	ク Bさんは、「いまいづこ」をだんだん小さく、遅く歌うために、最後までデクレッシェンドできるような息遣いで歌っていた。言葉の発音だけでなく、旋律に合わせて息をコントロールすることで、この曲のもっている寂しさを表現するpが歌えそうだ。	表現に必要な発音の仕方などを身に付けられた姿を、生徒の追求の様子から見取る。	
終末	4 題材の学習を振り返る。	ケ 「ああ荒城の」の部分でfで歌えるように、直前で息を吸って、コントロールしたり、「夜半の月」の部分で急に小さく歌うために、pの発音を息を混ぜてため息のようにしたりすることで、夜半の月の怪しい情景や虚しい心情を表現できた。pの繊細な歌い方を他の合唱にも生かしていきたい。	・題材の中で見いだした表現方法や今後の歌唱に生かしていきたいことについて振り返る。 ・ケのように具体的な歌い方を記述している考えの生徒を全体で紹介する。	7分